

ハマフエフキの中間育成

鳩間用一・甲斐哲也・小濱健徳・仲原英盛

1. 目的

平成21年度は養殖用の大型種苗(全長50mm)8.7万尾を生産する。

2. 材料と方法

中間育成は、5月19日から7月1日までおこなった。種苗生産1回次と4回次の種苗14.5万尾を用いた。飼育には、屋内50kℓ円形水槽を使用した。

給餌は各水槽に自動給餌機設置し、配合飼料、中国産冷凍コペポーターを給餌した。給餌量は稚魚の魚体重を適宜測定し、一日あたり魚体重の3～15%量を給餌した。

中間育成からは無加温で飼育した。

底掃除は毎日行い、回収した斃死魚の計数を行うことで、生残数の推定を行った。

出荷時には手作業により全体の中で小型の個体と

骨格異常魚の選別を行い、ベルトコンベアー式のフィッシュカウンターを用いて計数を行った。選別は2回おこなった。

3. 結果

平成21年度の中間育成結果を表1に示した。日齢82～86日で7.3万尾の種苗を取り上げた。中間育成の生残率(廃棄処分含む)は、50.8%であった。

育成期間中は特に斃死等もみられず順調な生産であった。生残率(廃棄処分含む)が例年に比べて低いのは、選別を2回おこなったためである。今年度は奇形魚を省く精度を上げ、良質な種苗の確保をはかるため選別を2回おこなった結果、漁業者からの種苗の評価は好評であった。

養殖用大型種苗の要望数は、最終的に7.15万尾であり、すべてを満たすことができた。

表1 平成17年度ハマフエフキ中間育成結果

収容年月日	(月日)	2006/5/19～25
水槽規模(開始時)	(kℓ)	50kℓ×4面
稚魚の収容数	(尾)	144,640
開始密度	(尾/kℓ)	723
飼育日数	(日)	82～86
取り上げ尾数	(尾)	73,439
生残率	(%)	50.8
取り上げ平均全長	(mm)	72.0